

ルカの福音書 第2章 8節

「さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。」

明るく華やかさで賑わうクリスマス・シーズンの到来である。世界が暗ければ暗いほど、各地に建てられ灯されるクリスマスツリーのひかりが強く目にしみる。ここから喜び楽しむ季節ではあるが、ここらの奥底には手放して喜べない闇が潜む。明るい街のモニターに映し出される闘い、戦地で泣き叫ぶ子らや母親たち。戦争を止めよと各地の大通りで叫ばれる。戦争をとめようと世界の指導者たちがテーブルを囲む。闘いは続いている。この季節にかまわずミサイルは飛ぶ。

この世に御子イエスが誕生された。クリスマスの出来事である。その御告げは野原で野宿しながら羊飼いたちに届いた。聖地エルサレムからすれば、野宿しなければならないほど遠く離れた荒野での御告げである。クリスマスのおとずれは絢爛豪華な都エルサレムではない。荘厳なエルサレム神殿ではない。野宿していた羊飼いへの御告げである。クリスマスの驚きである。

荒野から告げられたこの驚くべきおとずれは、世の惨憺たる有様を露わにし、その只中に立ち救いをもたらし、神のご支配を実現する出来事の開始である。やがて叫びも嘆きも、痛みも涙も、争いも闘いも終わる主の日への一歩が荒野から始まった。

2023年11月15日